

公益社団法人日本天文学会理事会議事録

日 時：2016年3月14日（水） 18：45～20：25

場 所：首都大学東京 1号館 207号室

出席理事：市川、半田、山下、中村、熊谷、青木、佐藤、山岡、須佐、政井（以上10名）

出席監事：松原、渡邊（以上2名）

欠席理事：望月、柴田、嶋作、谷口（以上4名）

オブザーバー：寺島、町田（以上2名）

また、佐藤事務長、黒岩事務長補佐が出席した。

I. 確認事項など

I-1 議事に先立ち、出席者が10名で定足数を満たし、本会が成立することが確認された。また定款に基づき、以下のとおり議長と署名人の確認がなされた。

議 長：市川隆

署名人：市川隆、半田利弘、松原英雄、渡邊鉄哉

I-2 前回議事録

資料2に基づき、前回（2015年12月20日）の理事会議事録が報告・確認された。

II. 報告

II-1 入退会報告（資料3、中村）

2015年12月19日より2016年3月4日までの間の会員変動が報告された。仮承認された新入会は正会員5名、準会員4名、準会員から正会員（学生）への移籍0名、退会者は3名であった。また、これまで天文月報の入退会報告で個人名を掲載していたが、個人情報保護の観点から統計数のみの記載とすることにする。

II-2 開催中の年会に関する報告およびそれ以降の年会の進捗状況報告

1. 首都大学東京（佐藤・政井）

初日の登録者数は555名、総講演数669件、ポストデットライン4件（重力波関係）、キャンセル1件。特に大きな問題はなく、順調である。

2. 愛媛大学（寺島）

公開講演会の内容・講演者を決定した。松山観光コンベンション協会に助成金を申請中。愛媛県観光物産協会に助成金を申請予定。

3. 九州大学（山岡）

記者発表は、大学の広報室と協力して九州大学の年会会場で3月14日に開催する。教室本予約はこれから。ポスター会場を半屋外のスペースでやるか教

室でやるかはこれから決定。両方共予約している。助成金を申請中。公開講演会は3月19日に天神地区のエルガーラホールで開催する予定。

4. PASJ 編集委員会からの報告（代理・山下）

OUP からの収支報告書が届き、30824 ポンドが OUP から日本天文学会に送金される予定。来年度の紙版は（積極的）希望者にのみに配布することとし、145名の希望があった。780名から大幅に減ったので、発送経費の大幅削減が予想される。

II-3 事業担当理事の近況

1. 年会（佐藤）

先に報告した通り。次回の年会準備は来週に企画セッションの募集をする。

2. 月報（青木）

SEEDS の特集。重力波の記事も掲載予定。“ひので”の特集。11月以降の特集記事はまだ決まっていない。

3. 庶務（山下）

月報に年会開催地の立候補のアナウンスをしたが、反応はまだない。3月末までに事業案・予算案を内閣府に報告予定。休会申請が2件あった。1件の申請（休会の延長）は事情を鑑み認めたが、もう1件は海外勤務のための休会申請のため認めなかった。

4. 会計（熊谷）

4月下旬に会計監査を受ける予定。寄付のアナウンスをウェブに掲載予定である。

5. 天文教育（山岡）

ジュニアセッションは口頭講演が本日14日に開かれ、生徒の参加者は226名、引率者68名、その他30名、タイからの参加者もあり例年通り大盛況であった。天文教育フォーラム参加者100名程度。日本学術会議から意見を求められていた「大学教育の質保証のための教育課程の編成基準」については、物理学・天文学分野の策定が12月の分科会で終わり、パブリックコメントを求める段階になった。別文書となった日本天文学会発の文書は仕切り直して作成中。

II-4 事務所の近況報告（佐藤）

内閣府の立ち入り検査が延期され、4～6月中に監査が入る予定。内閣府から、登録情報や報告書の修正依頼が多数来ている。庶務理事・会計理事と協力し、2016年度事業案予算案を内閣府に提出予定。

II. その他

II-1 日本天文学会天文遺産認定委員会（仮称）内規（案）の提案（資料7、半田）

半田副会長より内規の説明があり、意見交換をした。一度にたくさん認定せず、少しずつ認定したいという意向が委員会からあった。現在、どの程度候補があるかの調査はこれからやる予定。日本国内に限定されているが、日本人が作成などに携わり、現在外国にあるものはどうするかという質問があった。3条委員会で置くのはどうか。名称は認定委員会より選考委員会のほうが良いのではないかとの意見も出た。再度、ワーキンググループ内でこれらの意見を検討することとなった。

II-2 研究奨励賞の資格について（資料6、山下）

現行の研究奨励賞では最近5年間の業績で評価されることになっているが、この運用では年齢制限の35歳近くの候補者にとって初期の業績が考慮されなくなってしまうため、もう少し広く業績を評価できるようにしたいとの要望が研究奨励賞選考委員会よりあった。次回の募集まで時間もあるので、代議員にも意見を聞き、再度議論することになった。

III. 議題

III-1 新規入会者の承認（資料3、中村）

全会一致で承認された。

III-2 内規の改正（資料5、山下）

研究奨励賞内規、内地留学奨学金内規について改正の提案があった。賞・奨学金の原資について不足する場合は会費から充てるようにする案である。全会一致で承認された。また、これに伴い賛助会員名簿の賛助会費の使用目的の変更案も承認された。

●研究奨励賞内規

[現行]

（賞の原資）

第7条 賞の原資は個人・団体を問わず一般より継続して募集する。

[改正後]

（賞の原資）

第7条 賞の原資は個人・団体からの寄付金とし、不足する場合は会費を充てる。

●内地留学奨学金内規

[追加後]

（奨学金の原資）

第9条 奨学金の原資は本基金と、個人・団体からの寄付とし、不足する場合は会費から充てる。

- III-3 衛星設計コンテスト推進委員会委員の変更について（市川、資料8）
松浦周二委員（JAXA 宇宙科学研究所）と谷津陽一委員（東京工業大学）の退任に伴い、松村 知岳氏および川田光伸氏（JAXA 宇宙科学研究所）が新委員として提案され、全会一致で選任された。
- III-4 休会期間の延長（資料なし、市川）
現在の休会制度は休会期間を原則として最長 2 年間としているが、大学等では休職期間が最長 3 年となっている場合が多いことなどを考慮して、休会期間を原則として最長 3 年とすることが提案され、全会一致で承認された。
- III-5 年会発表資格と予稿投稿方法の変更について（資料9、佐藤）
2016 年秋季年会から、通常セッションでの発表資格を会員に限ること、2017 年春季年会から投稿方法を電子投稿のみに一本化することの提案があり、全会一致で承認された。入会者数の増加に伴って事務量が増大への対応が必要との指摘もあったが、実際の手続きについては事務所と調整し、発表資格を会員に限定する方向で進める。また、電子投稿についてクレーム対応をどうするかなど実務理事・年会実行委員会のほうで詳細を練るということでした承された。

[資料リスト]

- 資料 1 理事会出欠表
資料 2 前回理事会（2015/12/20）議事録
資料 3 新規入退会・移籍者などの報告
資料 4 PASJ 編集委員会からの報告
資料 5 内規の改正（案）
資料 6 研究奨励賞の内規変更の提案
資料 7 日本天文学会天文遺産認定委員会（仮称）内規
資料 8 衛星設計コンテスト推進委員会委員の変更について
資料 9 年会発表資格と予稿投稿方法の変更について

2016年 3月14日

会 長：市川 隆 印

副会長：半田 利弘 印

監 事：松原 英雄 印

監 事：渡邊 鉄哉 印